

サイボウズ リモート
サービス
管理者マニュアル

商標について

- 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。

個別の商標・著作物に関する注記については、弊社のWebサイトを参照してください。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/>

なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。

目次

1章 システム設定	4
1.1. インストール後にシステム管理者が行うこと	4
1.2. 操作上の注意と画面の見かた	6
1.3. リモートサービスマネージャーにアクセスする	13
1.4. ライセンスを管理する	18
1.5. システム管理用のパスワードを設定する	22
1.6. Webプロキシを設定する	22
1.7. 表示言語を切り替える	23
2章 Webブラウザ/Garoon モバイルからのアクセス	25
2.1. 利用製品を管理する	25
2.2. 利用ユーザーを管理する	32
2.3. クライアント証明書を管理する	42
2.4. URLを変換する製品を設定する	53
2.5. リモートポータルを設定する	57
2.6. アクセス情報をユーザーに連絡する	61
3章 保守	63
3.1. リモートサービスマネージャーを開始、停止する	63
3.2. データをバックアップする	66
3.3. データをリストアする	69
3.4. 製品の動作環境を確認する	75
3.5. ログから得られる情報	76
3.6. サポートオンラインに問い合わせる	77

1章 システム設定

システム管理者が行う、リモートサービスマネージャーのシステム設定を説明します。

1.1. インストール後にシステム管理者が行うこと

リモートサービスマネージャーをインストールしたあとに、システム管理者が行うことの流れを説明します。

Steps:

- Step 1 [リモートサービスマネージャーにログインします。](#)
- Step 2 [利用製品を登録します。](#)
- Step 3 [利用ユーザーを登録します。](#)
- Step 4 [利用する証明書を設定します。](#)
- Step 5 [ユーザーに連絡します。](#)

Step 1 リモートサービスマネージャーにログインします。

ログインする手順の詳細は、[リモートサービスマネージャーにアクセスする\(13ページ\)](#)方法を参照してください。

Step 2 利用製品を登録します。

リモートサービスを經由して利用する製品を登録します。
詳細は、次のページを参照してください。

[サイボウズ製品を追加する\(25ページ\)](#)

[サードパーティー製品を追加する\(29ページ\)](#)

Step 3

利用ユーザーを登録します。

リモートサービスを経由して、サイボウズ製品を利用するユーザーを登録します。

詳細は、[利用ユーザーを追加する\(32ページ\)](#)方法を参照してください。

サードパーティー製品の場合、利用ユーザーを登録する必要はありません。

Step 4

利用する証明書を設定します。

リモートサービスのセキュアアクセスオプションが有効な場合に設定できます。

詳細は、[クライアント証明書を管理する\(42ページ\)](#)方法を参照してください。

Step 5

ユーザーに連絡します。

ユーザーに、リモートサービスのアクセス情報(アクセスURL、クライアント証明書)を連絡します。

詳細は、[アクセス情報をユーザーに連絡する\(61ページ\)](#)方法を参照してください。

補足

- リモートポータル機能を使用し、ポータル画面から複数の利用製品にアクセスしたり、システム管理者からのお知らせを確認したりできます。

詳細は、[リモートポータルを設定する\(57ページ\)](#)方法を参照してください。

1.2. 操作上の注意と画面の見かた

リモートサービスマネージャーを操作する上での注意点と、画面の見かたを説明します。

製品のアクセスURLの注意点について

製品のアクセスURLをリモートサービスマネージャーに追加する場合は、次の点に注意してください。

- **登録できる製品**

リモートサービスを利用できる製品については、製品サイトの[対応製品](#)のページを参照してください。

- **サイボウズ製品のアクセスURL**

アクセスURLは、大文字と小文字を区別し、正しく入力してください。

- **パッケージ版 サイボウズ Office :**

- Windows版 :

http:// (サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /scripts/cbag/ag.exe

- **パッケージ版 Garoon :**

- Windows版 :

http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) /scripts/cbgrn/grn.exe

- Linux版 (単体構成) :

http:// (サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /cgi-bin/cbgrn/grn.cgi

- Linux版 (DB分割構成) :

http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) /grn/cbapi/index.csp

- **サードパーティー製品のアクセスURL**

アクセスURLは、ログイン画面または製品のトップページのURLを指定します。大文字と小文字を区別し、正しく入力してください。

サードパーティー製品は、リモートサービスの試用期間中、またはライセンスが有効な場合に追加できます。

製品へのアクセスに必要なURLパスについて

サードパーティー製品を利用製品に追加する場合は、次の情報が保存されているURLパスを入力します。

- 製品の画像ファイル： /*****/*****/image/
- CSSファイル： /*****/*****/css/
- HTMLファイル： /***/html/
- JavaScriptファイル： /***/js/

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、[利用製品を追加する]をクリックします。
3. 「利用製品の追加」画面で、サードパーティー製品のアクセスURLを入力し、[追加する]をクリックします。
4. 「サードパーティー製品の追加」画面で、「製品のアクセスURL」と「製品名」が入力されていることを確認します。
5. 「製品へのアクセスに必要なURLパス」項目で、「URLパスを入力する」のチェックボックスを選択し、[URLパスを抽出する]をクリックします。
初めてサードパーティー製品を利用製品に追加する場合は、自動的に必要なURLパスが入力されます。手順6の操作を続けると、手動でもURLパスを設定できます。
6. 「URLパスの抽出」ダイアログに表示される手順に従って、テキストエリアにページのソースを貼りつけて、[抽出する]をクリックします。
7. 設定内容を確認し、[追加する]をクリックします。

補足

- サードパーティ製品のページが適切に表示されない場合：
表示されないページのソースコードを「URLパスの抽出」ダイアログのテキストエリアに貼り付け、URLパスを抽出します。
- 誤ったURLパスが設定されると、リモートサービス経由でアクセスしても、画面が表示されなかったり、表示が崩れたりします。

「利用ユーザーの設定」画面の見かた

「利用ユーザーの設定」画面の見かたを説明します。

サイボウズ製品が利用製品として登録されている場合に表示されます。

The screenshot shows the '利用ユーザーの設定' (User Settings) page for 'サイボウズ Office 10.8.0'. The page includes the following elements:

- 1**: A box highlighting the user counts: '契約ユーザー数: 50人 登録ユーザー数: 3人'.
- 2**: A box highlighting the '製品のアクセス情報' (Product Access Information) section, which includes a message: '利用ユーザーに、この製品のアクセス情報を連絡してください。' and a link to '製品のアクセス情報'.
- 3**: A box highlighting the group selection options: '(すべての利用ユーザーを表示する)' and '(製品側で削除されたユーザーを表示する)'.
- 4**: A box highlighting the search input field labeled 'ユーザー名検索'.
- 5**: A box highlighting the '最終アクセス日時' (Last Access Date/Time) column in the user list table.

ユーザー名	所属グループ	最終アクセス日時
<input type="checkbox"/> 高橋 健太	ルート > 総務部	17:00
<input type="checkbox"/> 加藤 美咲	ルート > 営業部	
<input type="checkbox"/> 大山 春香	ルート > 総務部	

■ パーツの説明

番号	説明
1	<p>ユーザー数の確認：</p> <p>ライセンスに登録されている契約ユーザー数と、製品の利用ユーザーに登録されている登録ユーザー数が表示されます。</p> <p>利用ユーザーを設定する手順の詳細は、次のページを参照してください。</p> <p>Webブラウザ/Garoon モバイルからのアクセス：利用ユーザーを管理する(32ページ)</p>
2	<p>製品のアクセス情報：</p> <p>リモートサービス経由でサイボウズ製品にアクセスするための、アクセスURLを確認できます。</p> <p>ユーザーにアクセス情報を連絡する手順の詳細は、次のページを参照してください。</p> <p>Webブラウザから/Garoon モバイルからのアクセス：アクセス情報をユーザーに連絡する(61ページ)</p>
3	<p>製品側で削除されたユーザーの確認：</p> <p>製品側で削除されたユーザーを絞り込んで表示できます。</p> <p>製品側でユーザーを削除してもリモートサービスマネージャーには反映されないため、製品側で削除されたユーザーは、リモートサービスマネージャーで利用ユーザーから削除する必要があります。</p> <p>利用ユーザーを削除する手順についての詳細は、利用ユーザーを削除する(35ページ)方法を参照してください。</p>
4	<p>利用ユーザーの検索：</p> <p>[ユーザー名検索]を使うと、選択しているグループの中から該当するユーザーを検索できます。</p>
5	<p>最終アクセス日時：</p> <p>ユーザーが、サイボウズ製品（Garoon、Officeなど）に、リモートサービス経由で最後にアクセスした日時が表示されます。</p> <p>Webブラウザや、スマートフォンアプリでサイボウズ製品にアクセスした場合にも、最終アクセス日時は更新されます。</p>

「製品情報の詳細」画面の見かた

「製品情報の詳細」画面には、リモートサービスのアクセス情報が表示されます。

システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 製品情報の詳細

サイボウズ Garoon 6.0.0

利用ユーザーを設定する
 利用する証明書を設定する
 製品情報を更新する
 削除する

1	製品名	サイボウズ Garoon 6.0.0
2	製品のアクセスURL	
3	契約ユーザー数	50 人
4	登録ユーザー数	43 人
5	利用する証明書	<input checked="" type="checkbox"/> マスターのクライアント証明書 [証明書の利用方法] 6

9

操作手順

- 1 利用ユーザーを設定する
- 2 利用する証明書を設定する
- 3 証明書の利用方法をユーザーに連絡する

システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 製品情報の詳細

サードパーティー製品

利用する証明書を設定する
 製品情報を更新する
 削除する

製品名	サードパーティー製品	
製品のアクセスURL		
契約ユーザー数	50 人	
7	サードパーティー製品への同時接続数	0 人
8	製品へのアクセスに必要なURLパス	/
利用する証明書	<input checked="" type="checkbox"/> マスターのクライアント証明書 [証明書の利用方法]	

操作手順

- 1 利用する証明書を設定する
- 2 証明書の利用方法をユーザーに連絡する

■ パーツの説明

番号	説明
1	ユーザー数の確認： 製品名利用している製品の製品名です。
2	製品のアクセスURL： 利用している製品の製品認証URLです。 製品認証URLとは、製品のアクセスURLにリモートサービス用の文字列を付加したURLです。
3	契約ユーザー数： 契約しているユーザー数です。
4	登録ユーザー数： 登録しているユーザー数です。
5	利用する証明書： セキュアアクセスオプションが有効な場合に表示されます。利用製品がアクセスを許可する製品として設定されているクライアント証明書です。
6	証明書の利用方法： 利用ユーザーにリモートサービスへのアクセス情報を連絡する手順が記載されています。
7	サードパーティー製品への同時接続数： 利用製品としてサードパーティー製品が登録されている場合に表示されます。サードパーティー製品に同時に接続しているユーザー数です。
8	製品へのアクセスに必要なURLパス： 利用製品としてサードパーティー製品が登録されている場合に表示されます。リモートサービス経由でサードパーティー製品にアクセスする場合に必要なURLパスです。
9	操作手順： 「製品情報の詳細」画面で操作する手順が記載されています。

「クライアント証明書の管理」画面の見かた

「クライアント証明書」管理画面の見かたを説明します。

The screenshot shows the 'クライアント証明書の管理' (Client Certificate Management) page. It features a search bar (2) and a table of certificates (3). The table has columns for '証明書名' (Certificate Name), 'ステータス' (Status), '利用期限' (Validity Period), '最終アクセス日時' (Last Access Time), and '作成日時' (Creation Time). Two certificates are listed: 'Example02' (有効) and 'Example01' (無効). Callout 1 points to the '+ 発行する' (Issue) button, and callout 4 points to the '削除する' (Delete) button.

■ パーツの説明

番号	説明
1	<p>ユーザー発行のクライアント証明書の操作： 次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアント証明書の発行 • CSV ファイルによるクライアント証明書の管理
2	<p>クライアント証明書の検索： 検索対象は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 証明書名 • フレンドリー名

番号	説明
	<ul style="list-style-type: none">• 備考
3	<p>クライアント証明書情報の確認： 次の情報が確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 証明書名• ステータス• 利用期限• 最終アクセス日時： ユーザー発行のクライアント証明書を使って、リモートサービス経由で最後にサイボウズ製品にアクセスした日時です。• 作成日時
4	<p>選択操作： 選択したクライアント証明書に対し、一括でできる操作は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• クライアント証明書の削除

1.3. リモートサービスマネージャーにアクセスする

リモートサービスマネージャーでは、リモートサービスのシステムを管理します。

注意

- 「システム管理」画面にログイン中にリモートサービスマネージャーを再起動した場合は、もう一度ログインし直してください。

補足

- リモートサービスマネージャーをインストールして、はじめて「システム管理」画面にアクセスした場合は、「初期設定」画面が表示されます。画面にしたがってシステム管理の初期設定を開始します。

詳細は、[初期設定を実行する方法](#)を参照してください。

ログインする

Webブラウザを使用して、リモートサービスマネージャーにログインします。

1. Webブラウザを起動して、リモートサービスマネージャーにアクセスします。

リモートサービスマネージャーにアクセスするためには、次のURLにアクセスします。

http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) : (リモートサービスマネージャーが使用するポート番号) /login

FQDNについての詳細は、[FQDNとは](#)という説明を参照してください。

- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://192.168.1.1:8080/login

- FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://bozuman.co.jp:8080/login

2. リモートサービスマネージャーの表示言語を選択します。

「ログイン」画面で、表示言語を選択すると、一時的に「システム管理」画面の表示言語を変更できます。



3. パスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

パスワードは、大文字と小文字を区別し、正しく入力します。



ログインパスワードを再設定する

リモートサービスマネージャーへのログインパスワードを忘れた場合は、リモートサービスマネージャーをインストールしているサーバーでログインパスワードを再設定します。

1. リモートサービスマネージャーをインストールしているサーバーに、次のユーザーでログインします。

- Windows環境の場合：サーバーのAdministrator権限を持つユーザー
- Linux環境の場合：サーバーのroot権限を持つユーザー

2. リモートサービスマネージャーを停止します。

停止する手順は、[リモートサービスマネージャーを停止する\(65ページ\)](#)方法を参照してください。

3. (インストールディレクトリ) /confに移動します。

- Windows環境の場合の例：C:\Program Files (x86)\Cybozu\cbrc\conf
- Linux環境の場合の例：/usr/local/cybozu/cbrc/conf

4. 「user.pfx」の名前を変更します。

- 変更前：user.pfx
- 変更後：_user.pfx

5. リモートサービスマネージャーを開始します。

開始する手順は、[リモートサービスマネージャーを開始する\(64ページ\)](#)方法を参照してください。

6. 「パスワードの再設定」画面にアクセスします。

- リモートサービスマネージャーの「ログイン」画面のURLが「http://192.168.1.1:8080/login」の場合の「パスワードの再設定」画面のURLの例：
http://192.168.1.1:8080/passwordReset

7. 新しいパスワードを確認用とあわせて2回入力し、[設定する]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE

パスワードの再設定

システム管理画面にログインするためのパスワードを再設定します。
新しいパスワードを入力してください。

新しいパスワード

新しいパスワード (確認)

[設定する](#)

8. (インストールディレクトリ) /confに移動します。

- Windows環境の場合の例：C:\Program Files (x86)\Cybozu\cbrc\conf
- Linux環境の場合の例：/usr/local/cybozu/cbrc/conf

9. 手順4で変更した「_user.pfx」の名前を元に戻します。

- 変更前：_user.pfx
- 変更後：user.pfx

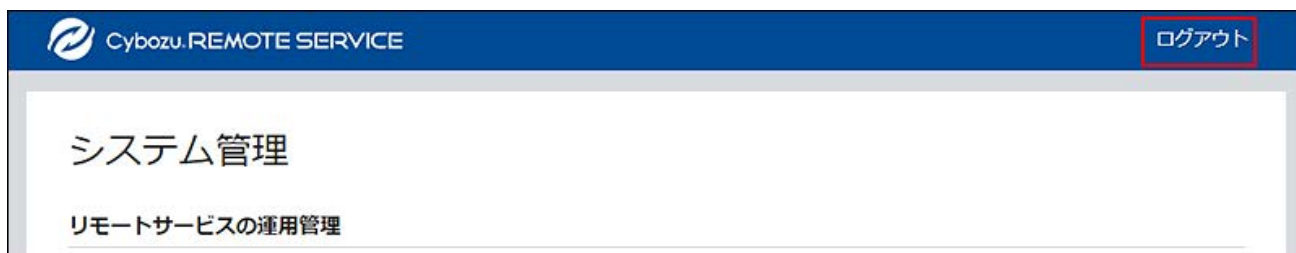
1. 「ログイン」画面にアクセスし、再設定したパスワードリモートサービスマネージャーにログインできることを確認します。

- リモートサービスマネージャーの「ログイン」画面のURLの例：
<http://192.168.1.1:8080/login>

ログアウトする

作業を終了する場合は、リモートサービスマネージャーからログアウトします。

1. リモートサービスマネージャーで、[ログアウト]をクリックします。



補足

- ログアウトせずにWebブラウザを終了すると、次回リモートサービスマネージャーにアクセスするときに「ログイン」画面が表示されます。

1.4. ライセンスを管理する

試用期間が終了したら、製品の使用ライセンスを登録します。

注意

- ライセンスが終了すると、次の操作はできません。
 - リモートサービスを經由した利用製品へのアクセス

- クライアント証明書の管理：

セキュアアクセスオプションが有効な場合のみ

- クライアント証明書の管理機能を使用している場合の注意:

マスターのクライアント証明書（（リモートID）.pfx）を変更し、リモートIDが変更されると、ユーザー発行クライアント証明書が使用できなくなります。マスターのクライアント証明書を登録し直して、リモートIDが元に戻れば、ユーザー発行クライアント証明書が使用できるようになります。

クライアント証明書、およびリモートIDについての詳細は、次のページを参照してください。

[クライアント証明書とは](#)

[リモートIDとは](#)

補足

- ライセンスの終了期間が近づくと、リモートサービスマネージャーの画面上部にメッセージが表示されます。
 - ライセンスを購入している場合は、使用終了日の60日前になると、メッセージが表示されます。
 - 試用期間中は、試用期間の終了日が表示されます。
 - 製品購入、使用ライセンスについては、製品サイトの[価格・見積・発注](#)をご覧ください。

ライセンスを更新する

クライアント証明書を再登録し、登録されているライセンスを更新します。

試用期間終了時に、リモートサービスの使用ライセンスを登録したり、使用しているライセンスが変更になった場合に、新しいライセンスに更新したりします。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、[システム設定]をクリックします。
2. 「システム設定」画面で、[ライセンスの管理]をクリックします。
3. 「ライセンスの管理」画面で、[クライアント証明書を登録する]をクリックします。

「ライセンスの管理」画面には、現在登録されているライセンスの情報が表示されます。

4. 「クライアント証明書の登録」画面で、クライアント証明書（zipファイル）を選択し、[登録する]をクリックします。

zipファイル以外の形式のファイルは登録できません。

クライアント証明書のファイル形式がzipファイル以外の場合は、製品サイトの[クライアント証明書ダウンロード](#)から、zip形式のクライアント証明書をダウンロードします。

「証明書の登録完了」画面が表示されれば、クライアント証明書の登録は終了です。

注意

- 次の場合は、[リモートサービスマネージャーを再起動する\(64ページ\)](#)必要があります。
 - 「ライセンスの管理」画面に、ライセンスの内容が表示されていない場合
 - 「証明書の登録完了」画面に、「ライセンス情報の取得に失敗したため、サービスを開始できません。ネットワーク環境を確認し、サービスを再起動してください。」というメッセージが表示された場合

クライアント証明書を差し替えるときの流れ

クライアント証明書を差し替えるときは、次の手順で操作します。

Steps:

- Step 1 [クライアント証明書を登録します。](#)
- Step 2 [ユーザーに新しいクライアント証明書とパスワードを配布します。](#)
- Step 3 [ユーザーにクライアント証明書の差し替えを依頼します。](#)

**Step
1** **クライアント証明書を登録します。**

新しいクライアント証明書をリモートサービスマネージャーに登録します。
手順は、[ライセンスを更新する\(19ページ\)](#)方法を参照してください。

**Step
2** **ユーザーに新しいクライアント証明書とパスワードを配布します。**

リモートサービスを利用しているユーザーに、新しいクライアント証明書とパスワードを配布します。

必要に応じてアクセス情報をユーザーに連絡します。連絡方法の詳細は、次のページを参照してください。

[アクセス情報をユーザーに連絡する\(61ページ\)](#)

**Step
3** **ユーザーにクライアント証明書の差し替えを依頼します。**

リモートサービスを利用しているユーザーに、新しいクライアント証明書への差し替えを依頼します。

詳細は、[クライアント証明書の登録方法](#)を参照してください。

1.5. システム管理用のパスワードを設定する

リモートサービスマネージャーにログインするために必要なパスワードを設定する方法を説明します。

パスワードは、定期的に変更することを推奨します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、[システム設定]をクリックします。
2. 「システム設定」画面で、[パスワードの変更]をクリックします。
3. 「パスワードの変更」画面で、現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。
新しいパスワードは、確認用とあわせて、2回入力します。

4. 設定内容を確認し、[変更する]をクリックします。

1.6. Webプロキシを設定する

インターネットアクセス時にプロキシサーバーを使用している場合、プロキシサーバーの設定が必要です。

プロキシサーバーについての詳細は、[プロキシサーバーとは](#)という記事を参照してください。

注意

- Webプロキシの設定を変更したあとは、必ずリモートサービスマネージャーを再起動してください。再起動させると、リモートサービスマネージャーが正常に動作します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、[システム設定]をクリックします。
2. 「システム設定」画面で、[Webプロキシの設定]をクリックします。
3. 「Webプロキシの設定」画面で、「プロキシサーバーを利用している」のチェックボックスを選択します。
4. サーバー名とポート番号を入力します。
5. 設定内容を確認し、[設定する]をクリックします。
6. リモートサービスマネージャーを再起動します。

手順の詳細は、[リモートサービスマネージャーを再起動する\(64ページ\)](#)方法を参照してください。

1.7. 表示言語を切り替える

リモートサービスマネージャーの表示言語を切り替える方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、[システム設定]をクリックします。
2. 「システム設定」画面で、「表示言語の設定」をクリックします。
3. 「表示言語の設定」画面で、「言語」項目のドロップダウンリストから、言語を選択します。

4. 設定内容を確認し、[設定する]をクリックします。

補足

- 一時的に「システム管理」画面の表示言語を変更する場合は、「ログイン」画面のメニューで表示する言語を選択します。
-

2章 Webブラウザ/Garoon モバイルからのアクセス

Webブラウザ/Garoon モバイルからリモートサービスを利用する場合に必要な設定や操作について説明します。

2.1. 利用製品を管理する

Webブラウザ/Garoon モバイルからリモートサービスを経由して接続する製品を、リモートサービスマネージャーで管理します。

サイボウズ製品の場合

サイボウズ製品を利用製品として設定します。

サイボウズ製品を追加する

リモートサービスでは、利用するサイボウズ製品を登録してから、利用ユーザーを登録します。ここでは利用製品を追加する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、[利用製品を追加する]をクリックします。
3. 「利用製品の追加」画面で、製品のアクセスURLを入力します。

アクセスURLを入力する際には、[製品のアクセスURLの注意点について\(6ページ\)](#)という説明を参照してください。

4. 設定内容を確認し、[追加する]をクリックします。
5. 「利用製品の追加完了」画面を確認し、次の設定を続けます。



- 利用ユーザーの追加：

[利用ユーザーの設定へ]をクリックすると、「製品情報の詳細」画面が表示されます。

追加した製品に、リモートサービスの利用ユーザーを追加してください。

手順の詳細は、[利用ユーザーを追加する\(32ページ\)](#)方法を参照してください。
- 利用する証明書の設定：

[利用する証明書を設定する]をクリックすると、「利用する証明書の設定」画面が表示されます。

必要に応じて設定してください。お使いのライセンスによっては、表示されない場合があります。

手順の詳細は、[利用する証明書を設定する\(46ページ\)](#)方法を参照してください。

サイボウズ製品を更新する

登録されている利用製品の製品情報を更新する方法を説明します。

製品情報を更新しても、利用ユーザーの設定を変更する必要はありません。

• 次の場合、利用製品の製品情報を更新します。

- 利用製品をバージョンアップした場合
- 利用製品のサーバーを移行し、製品のアクセスURLが変更になった場合

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。

2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、更新する製品名をクリックします。

3. 「製品情報の詳細」画面で、[製品情報を更新する]をクリックします。

4. 「製品情報の再取得」画面で、製品のアクセスURLを入力します。

アクセスURLを入力する際には、[製品のアクセスURLの注意点について\(6ページ\)](#)という説明を参照してください。

5. 設定内容を確認し、[更新する]をクリックします。

6. 製品にログインする必要がある場合は、システム管理者として、製品にログインします。

製品にログインする必要のない場合、この手順は省略されます。ログイン方法は、製品での設定によって異なります。

サイボウズ製品を削除する

利用製品を削除する方法を説明します。

注意

- 利用製品を削除すると、その製品に設定されている利用ユーザーも削除されます。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、削除する製品名をクリックします。
3. 「製品情報の詳細」画面で、[削除する]をクリックします。
4. 削除する場合は、「利用製品の削除」ダイアログで、[削除する]をクリックします。

補足

- 次の画面からも、利用製品を削除できます。
 - 「製品/ユーザーの設定」画面で、削除する製品のチェックボックスを選択し、[削除する]をクリックします。

サードパーティー製品の場合

サードパーティー製品を利用製品として設定します。

リモートサービスをご契約済みの場合、サードパーティー製品を利用製品に追加できます。ライセンスについての詳細は、製品サイトの[価格・見積・発注](#)を参照してください。

リモートサービスの試用期間中である場合、サードパーティー製品を利用製品に追加するには、サードパーティー製品への接続を申請する必要があります。詳細は、製品サイトのお試し方法の[サードパーティー製品への接続](#)を参照してください。

サードパーティー製品へのアクセスの制限事項

リモートサービス経由でアクセスできるサードパーティー製品には、次の制限事項があります。

- 1人のユーザーでも、Webブラウザやスマートフォンなどの異なる端末から同じ製品にアクセスすると、2接続とカウントされます。
- 同時接続数は、製品単位ではなく、すべてのサードパーティー製品に対する接続数の合計です。

同時接続数についての詳細は、[同時接続数とは](#)という記事を参照してください。

サードパーティー製品を追加する

利用製品を追加する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、[利用製品を追加する]をクリックします。
3. 「利用製品の追加」画面で、製品のアクセスURLを入力し、[追加する]をクリックします。

アクセスURLを入力する際には、[製品のアクセスURLの注意点について\(6ページ\)](#)という説明を参照してください。

4. 必要な項目を入力します。

設定する項目は次のとおりです。

- 製品のアクセスURL
- 製品名
- 製品へのアクセスに必要なURLパス：
詳細は、[製品へのアクセスに必要なURLパスについて\(7ページ\)](#)という説明を参照してください。

5. 設定内容を確認し、[追加する]をクリックします。

6. 「利用製品の追加完了」画面を確認し、次の設定を続けます。



- アクセス情報の連絡：

[アクセス情報を連絡する]をクリックすると、「製品情報の詳細」画面が表示されます。

製品のアクセス情報を確認したあと、ユーザーに利用方法を連絡します。

手順の詳細は、[アクセス情報をユーザーに連絡する\(61ページ\)](#)方法を参照してください。

- 利用する証明書の設定：

[利用する証明書を設定する]をクリックすると、「利用する証明書の設定」画面が表示されます。

必要に応じて設定してください。お使いのライセンスによっては、表示されない場合があります。

手順の詳細は、[利用する証明書を設定する\(46ページ\)](#)方法を参照してください。

サードパーティー製品を変更する

登録されている利用製品の製品情報を変更する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、更新する製品名をクリックします。
3. 「製品情報の詳細」画面で、[製品情報を変更する]をクリックします。
4. 「製品情報の変更（サードパーティー製品）」画面で、必要な項目を変更します。

設定する項目は、次のとおりです。

- アクセスURL：
アクセスURLを入力する際には、[製品のアクセスURLの注意点について\(6ページ\)](#)という説明を参照してください。
- 製品名
- 製品へのアクセスに必要なURLパス：
詳細は、[製品へのアクセスに必要なURLパスについて\(7ページ\)](#)という説明を参照してください。

5. 設定内容を確認し、[更新する]をクリックします。

サードパーティー製品を削除する

利用製品を削除する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、削除する製品名をクリックします。
3. 「製品情報の詳細」画面で、[削除する]をクリックします。
4. 削除する場合は、「利用製品の削除」ダイアログで、[削除する]をクリックします。

補足

- 次の画面からも、利用製品を削除できます。
 - 「製品/ユーザーの設定」画面で、削除する製品のチェックボックスを選択し、[削除する]をクリックする
-

2.2. 利用ユーザーを管理する

Webブラウザ/Garoon モバイルからリモートサービスを経由してサイボウズ製品に接続できるユーザーを、リモートサービスマネージャーで管理します。

注意

- 利用ユーザーを登録する前に、リモートサービスマネージャーに利用製品が登録されている必要があります。
-

補足

- 利用ユーザーの設定時に、製品のシステム管理者のユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される場合があります。サイボウズ共通認証が設定されている場合でも、システム管理者として製品にログインする必要があります。
-

利用ユーザーを追加する

利用ユーザーを追加する方法を説明します。

利用製品を追加したあとに、引き続きユーザーを追加する場合は、手順3から操作します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、ユーザーを追加する製品の[利用ユーザーの設定]をクリックします。
3. 製品にログインする必要がある場合は、システム管理者として、製品にログインします。

製品にログインする必要のない場合、この手順は省略されます。手順4に進みます。

ログイン方法は、製品での設定によって異なります。

4. 「利用ユーザーの設定」画面で、[利用ユーザーを追加する]をクリックします。
すでに利用ユーザーが登録されている場合は、利用ユーザーに登録されている人数や利用ユーザー名を確認できます。
詳細は、[「利用ユーザーの設定」画面の見かた\(8ページ\)](#)を参照してください。

5. 「利用ユーザーの追加」画面で、追加するユーザーを選択し、[追加する]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE ログアウト

システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 利用ユーザーの設定 > 利用ユーザーの追加

サイボウズ Office 10.8.0

グループ

- ▼ ルート (3)
 - 総務部
 - 部長
 - 営業部

✎ 総務部

ユーザー名検索

所属ユーザー一覧

- 高橋 健太 (総務部)
- 加藤 美咲 (総務部)
- 大山 春香 (総務部)

↓候補 ↑削除

追加する利用ユーザー一覧

- 高橋 健太 (総務部)
- 加藤 美咲 (総務部)
- 大山 春香 (総務部)

追加する キャンセルする

- 利用ユーザーの候補に追加する：
グループを選択したあと、所属ユーザー一覧から、追加するユーザーを選択し、[候補]をクリックし、追加する利用ユーザー一覧に追加されていることを確認します。
ユーザー名検索を利用すると、検索ボックスにキーワードを入力し、候補となるユーザーを検索できます。
- 利用ユーザーの候補から削除する：
追加する利用ユーザー一覧で、候補から削除するユーザーを選択し、[削除]をクリックします。

6. 設定内容を確認し、ユーザーにアクセス情報を連絡します。



The screenshot shows the Cybozu.REMOTE SERVICE interface. At the top, there is a blue header with the logo and 'Cybozu.REMOTE SERVICE' on the left, and 'ログアウト' on the right. Below the header is a breadcrumb trail: 'システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 利用ユーザーの設定 > 利用ユーザーの追加完了'. The main content area has a white background with a grey border. It features the title '利用ユーザーの追加完了' in bold. Below the title, there are three paragraphs of text: 1. 「3」件の利用ユーザーを追加しました。 2. 追加した利用ユーザーに製品のアクセス情報を連絡してください。 → [利用ユーザーにアクセス情報を連絡する](#) 3. 引き続き、利用ユーザーの追加もできます。 → [さらに利用ユーザーを追加する](#) At the bottom of the page, there is a navigation bar with four items: '利用ユーザーの設定' (selected), 'システム設定', '動作環境', and 'サポート'.

- アクセス情報の連絡：

[アクセス情報を連絡する]をクリックすると、「製品情報の詳細」画面が表示されます。

製品のアクセス情報を確認したあと、ユーザーに利用方法を連絡します。

手順の詳細は、[アクセス情報をユーザーに連絡する\(61ページ\)](#)方法を参照してください。

- 利用ユーザーの追加：

[さらに利用ユーザーを追加する]をクリックすると、「利用ユーザーの追加」画面が表示されます。利用ユーザーを続けて追加する場合は、手順5の操作を繰り返します。

利用ユーザーを削除する

利用ユーザーを削除する方法を説明します。

製品側でユーザーを削除しても、リモートサービスマネージャーには反映されません。

製品側でユーザーを削除した場合は、リモートサービスマネージャーで利用ユーザーを削除する必要があります。

注意

- Webブラウザなどで、証明書をインストールして使用していた場合、利用ユーザーを削除したら、ユーザーが使用していた端末から、証明書を削除してください。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、利用ユーザーを削除する製品の[利用ユーザーの設定]をクリックします。
3. 製品にログインする必要がある場合は、システム管理者として、製品にログインします。
製品にログインする必要のない場合、この手順は省略されます。手順4に進みます。
ログイン方法は、製品での設定によって異なります。
4. 「利用ユーザーの設定」画面で、削除するユーザーのチェックボックスを選択し、[削除する]をクリックします。

サイボウズ Office 10.8.0

契約ユーザー数: 50人 登録ユーザー数: 3人

+ 利用ユーザーを追加する CSVファイルから読み込む CSVファイルへ書き出す 製品のアクセス情報

グループ (すべての利用ユーザーを表示する) (製品側で削除されたユーザーを表示する)

▼ ルート (3)

- 総務部
 - 部長
 - 営業部

品 総務部

削除する

ユーザー名 所属グループ 最終アクセス日時

ユーザー名	所属グループ	最終アクセス日時
<input checked="" type="checkbox"/> 高橋 健太	総務部	
<input checked="" type="checkbox"/> 加藤 美咲	総務部	
<input type="checkbox"/> 大山 春香	総務部	

削除する

製品/ユーザーの設定 システム設定 動作環境 サポート

5. 利用ユーザーから削除する場合は、「利用ユーザーの一括削除」画面で、[削除する]をクリックします。

利用ユーザー情報をCSVファイルで管理する

登録されている製品の利用ユーザーの情報をCSVファイルに書き出したり、CSVファイルから利用ユーザーの情報を読み込んだりします。

CSVファイルで管理できるデータ

CSVファイルは、製品ごとに準備します。

■ 対応製品

CSVファイルで利用ユーザーを管理できるのは、次のバージョンのサイボウズ製品のみです。メールワイズの利用ユーザーの管理には使用できません。

- Garoon：バージョン 2.5.2以降
- サイボウズ Office：バージョン 9.0.0以降

■ CSVファイルの読み込みに使用する項目

項目名	必須	説明
ユーザー識別子	✓	ユーザー識別子は、必須項目です。 利用製品のユーザーIDまたはログイン名を指定します。
削除フラグ		登録されている利用ユーザーを削除する場合は、「1」を指定します。

■ CSVファイルの書式

ユーザー識別子,削除フラグ

■ 記述例

ユーザー識別子	削除フラグ
16	
24	1
27	

■ CSVファイルに書き出される項目

項目名	説明
ユーザーID	利用製品に登録されているユーザーを識別するためのIDです。
ログイン名	利用製品に登録されているログイン名です。 ログイン名が出力されるのは、次のサイボウズ製品のみです。 <ul style="list-style-type: none"> • Garoon：バージョン 2.5.2以降 • サイボウズ Office：バージョン 9.0.0以降
ユーザー名	
所属グループ名	

利用ユーザー情報をCSVファイルから読み込む

CSVファイルからリモートサービスマネージャーに、利用ユーザー情報を読み込む手順を説明します。

この操作は、利用製品ごとに行います。

注意

- ユーザー識別子（ユーザーIDまたはログイン名）は必須項目です。
CSVファイルを読み込むと、ユーザーIDまたはログイン名に一致するユーザー名と所属グループ名を、利用製品から取得します。

- CSVファイルの読み込みに失敗する場合は、次の原因が考えられます。
 - Garoonとサイボウズ Officeの利用ユーザー情報が、1つのCSVファイルにまとめられている。
 - ユーザー識別子が、ユーザーIDとログイン名とで混在している。

1. データを読み込むためのCSVファイルを作成します。

CSVファイルで管理する項目については、[CSVファイルの読み込みに使用する項目\(37ページ\)](#)を参照してください。

2. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。

3. 「製品/ユーザーの設定」画面で、CSVファイルでユーザーを追加する製品の[利用ユーザーの設定]をクリックします。

4. 製品にログインする必要がある場合は、システム管理者として、製品にログインします。

製品にログインする必要のない場合、この手順は省略されます。手順4に進みます。

ログイン方法は、製品での設定によって異なります。

5. 「利用ユーザーの設定」画面で、[CSVファイルから読み込む]をクリックします。

6. 「利用ユーザー情報の読み込み」画面で、手順1で作成したCSVファイルを選択します。

7. 読み込むデータに必要な項目を設定し、[次へ]をクリックします。

設定する項目は、次のとおりです。

• 文字コード：

CSVファイルのデータを選択した文字コードでエンコードします。選択できる文字コードは、次のとおりです。

- 日本語 (Shift JIS)
- Unicode (UTF-8)

- ユーザー識別子：
準備したCSVファイルに記述しているユーザー識別子の情報が、ユーザーIDなのか、ログインIDなのかを指定します。
- 先頭行をスキップする：
CSVファイルの先頭行に、項目名やコメントなど、データ以外の情報が記述されている場合は、「はい」を選択します。

8. 必要な項目が設定されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE ログアウト

システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 利用ユーザーの設定 > 利用ユーザー情報の読み込み

利用ユーザー情報の読み込み

「*」は必須項目です。

ファイル* users_office.csv (43 bytes)

文字コード

ユーザー識別子

先頭行をスキップする はい

9. プレビューで、読み込むデータを確認し、[読み込む]をクリックします。

利用ユーザー情報をCSVファイルに書き出す

利用ユーザー情報を、CSVファイルに書き出す手順を説明します。

この操作は、利用製品ごとに行います。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。

2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、CSVファイルにユーザー情報を書き出す製品の [利用ユーザーの設定] をクリックします。

3. 製品にログインする必要がある場合は、システム管理者として、製品にログインします。

製品にログインする必要のない場合、この手順は省略されます。手順4に進みます。

ログイン方法は、製品での設定によって異なります。

4. 「利用ユーザーの設定」画面で、[CSVファイルへ書き出す] をクリックします。

5. 「利用ユーザー情報の書き出し」画面で、書き出すデータに必要な項目を設定します。

設定項目は、次のとおりです。

- 文字コード：

エンコードに使用する文字コードを選択します。選択できる文字コードは、次のとおりです。

- 日本語 (Shift JIS)
- Unicode (UTF-8)

- 先頭行に項目名を書き出す：

CSVファイルの先頭行に項目名を書き出す場合は、「はい」を選択します。

6. 設定内容を確認し、[書き出す] をクリックします。

The screenshot shows the 'Export User Information' (利用ユーザー情報の書き出し) screen. At the top, there is a blue header with the Cybozu.REMOTE SERVICE logo and a 'Logout' (ログアウト) button. Below the header, a breadcrumb trail reads: システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > 利用ユーザーの設定 > 利用ユーザー情報の書き出し. The main content area has the title '利用ユーザー情報の書き出し'. There are two settings: 'Character Code' (文字コード) is set to 'Japanese (Shift JIS)' (日本語 (Shift JIS)), and 'Export headers' (先頭行に項目名を書き出す) is checked with the label '(はい)'. At the bottom, there are two buttons: 'Export' (書き出す) and 'Cancel' (キャンセルする).

7. Webブラウザのファイル保存機能を使って、ファイルを保存します。

2.3. クライアント証明書を管理する

クライアント証明書を管理する方法を説明します。

リモートサービスのセキュアアクセスオプションが有効な場合、リモートサービスマネージャーでは次の証明書を管理します。

- **マスターのクライアント証明書：**

サイボウズ株式会社が発行する証明書です。ライセンス情報やリモートIDを含みます。すべての利用製品にアクセスできます。

- **ユーザー発行クライアント証明書：**

システム管理者が発行するクライアント証明書です。ライセンス情報は含みません。各証明書でアクセスを許可する製品や利用期限を設定できるため、用途に合わせて、ユーザーに証明書を配布できます。

例：

- 有期雇用メンバーのグループ：

利用期限が1年間で、かつ製品Aと製品Dへのアクセスを許可する証明書を配布する。

- 役職が部長のグループ：

利用期限が2年間で、かつすべての製品へのアクセスを許可する証明書を配布する。

注意

- クライアント証明書の管理機能は、リモートサービスのセキュアアクセスオプションが有効な場合に使用できます。

ただし、証明書のステータスの変更は、リモートサービスのセキュアアクセスオプションが無効でも設定できます。

証明書を発行する

ユーザー発行クライアント証明書を発行する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
2. 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行クライアント証明書で、[発行する]をクリックします。

3. 必要な項目を設定します。

設定する項目は、次のとおりです。

- 証明書名
- フレンドリー名
- 利用期限
- アクセスを許可する製品
- 備考

4. 設定内容を確認し、[発行する]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE ログアウト

システム管理 > クライアント証明書の管理 > 証明書の発行

証明書の発行

「*」は必須項目です。

証明書名 *	<input type="text"/>								
フレンドリー名 	<input type="text"/> <small>フレンドリー名を設定すると、変更できません。 文字数: 18文字以内 使用できる文字: 半角スペースと「a-z、A-Z、0-9、!、+、=、:、;、,、.、_、-、()」</small>								
利用期限	2022年 ▼ 1月 ▼ 19日(水) ▼								
アクセスを許可する製品	<table><tr><td>アクセスを許可する製品</td><td>登録製品</td></tr><tr><td><input type="text"/></td><td>サイボウズ Office 10.8.0</td></tr><tr><td></td><td>← 追加</td></tr><tr><td></td><td>削除 →</td></tr></table>	アクセスを許可する製品	登録製品	<input type="text"/>	サイボウズ Office 10.8.0		← 追加		削除 →
アクセスを許可する製品	登録製品								
<input type="text"/>	サイボウズ Office 10.8.0								
	← 追加								
	削除 →								
備考	<input type="text"/>								

補足

・フレンドリー名とは

ユーザー発行クライアント証明書を区別するための文字列です。リモートサービスにアクセスすると、利用している証明書のフレンドリー名がWebブラウザに表示されます。Webブラウザの種類によっては、フレンドリー名が表示されません。

• フレンドリー名の制限事項

設定したフレンドリー名は変更できません。使用できる文字は、次のとおりです。

- 半角スペースと「a-z、A-Z、0-9、'、+、-、:、,、.、?、()」

証明書を変更する

ユーザー発行クライアント証明書を変更する方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
2. 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行のクライアント証明書で、変更する証明書名をクリックします。
3. 「証明書の詳細」画面で、[変更する]をクリックします。
4. 「証明書の変更」画面で、必要な項目を設定します。

設定する項目は、次のとおりです。

- 証明書名
- 利用期限
- アクセスを許可する製品
- 備考

5. 設定内容を確認し、[変更する]をクリックします。

補足

- 「利用期限」を変更して、ユーザー発行のクライアント証明書の有効期限を延長しても、証明書自体は変更されないため、端末にインストール済みの証明書を差し替える必要はありません。

証明書のステータスを変更する

マスターのクライアント証明書、またはユーザー発行クライアント証明書のステータスを変更する方法を説明します。

証明書のステータスを無効にすると、その証明書を使用するユーザーは利用製品にアクセスできません。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
2. 「クライアントの証明書の管理」画面で、ステータスを変更する証明書名をクリックします。
3. 「証明書の詳細」画面で、[有効にする]をクリックします。
証明書を無効にする場合は、[無効にする]をクリックします。
4. 「証明書の有効化」ダイアログで、[有効にする]をクリックします。
証明書を無効にする場合は、「証明書の無効化」ダイアログで、[無効にする]をクリックします。

利用する証明書を設定する

各製品で利用する証明書を設定する方法を説明します。

利用製品を追加したあとに、利用する証明書を設定する場合は、手順3から操作します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、利用する証明書を設定する製品をクリックします。
3. 「製品情報の詳細」画面で、[利用する証明書を設定する]をクリックします。

4. 「利用する証明書の設定」画面で、証明書一覧から、利用する証明書を選択し、**[追加]**をクリックします。

利用する証明書から削除する場合は、利用する証明書の一覧から、証明書を選択して、**[削除]**をクリックします。

5. 設定内容を確認し、**[設定する]**をクリックします。

証明書を削除する

ユーザー発行クライアント証明書を削除する方法を説明します。

注意

- マスターのクライアント証明書は削除できません。
- 削除したユーザー発行クライアント証明書は、元に戻せません。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の**[クライアント証明書の管理]**をクリックします。
2. 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行のクライアント証明書で、削除する証明書名をクリックします。
3. 「証明書の詳細」画面で、**[削除する]**をクリックします。
4. 「証明書の削除」ダイアログで、**[削除する]**をクリックします。

補足

- 次の画面からも、ユーザー発行クライアント証明書を削除できます。
 - 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行のクライアント証明書で、削除する証明書のチェックボックスを選択し、**[削除する]**をクリックします。

証明書情報をCSVファイルで管理する

ユーザー発行のクライアント証明書をCSVファイルで管理します。

CSVファイルで管理できるデータ

CSVファイルの読み込みに使用する項目

項目名	必須	説明
証明書ID		新規にクライアント証明書を発行する場合は、証明書IDを空欄にします。
証明書名	✓	証明書名は、必須項目です。
フレンドリー名		新規にクライアント証明書を発行する場合にだけ、フレンドリー名を設定できます。 フレンドリー名をあとから変更することはできません。 フレンドリー名に使用できる文字は、半角スペースおよび「a-z、A-Z、0-9、'、+、-、:、,、.、?、()」です。 フレンドリー名は、18文字以下で入力してください。
ステータス		ステータスを有効にする場合は、「1」を設定します。 空欄にすると、ステータスが無効になります。

利用期限		読み込み可能な形式で利用期限を指定します。 たとえば、利用期限が2022年7月1日の場合、次のいずれかの形式で設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 2022-07-01 • 2022/07/01 • 2022-7-1 • 2022/7/1
(製品名) の利用		製品へのアクセスを許可する場合は、「1」を設定します。 空欄の場合、製品へのアクセスが拒否されます。
備考		
削除フラグ		クライアント証明書情報を削除する場合は、削除フラグに「1」を設定します。 いったん削除したクライアント証明書は、元に戻すことができません。 削除フラグに「1」を設定する場合は、削除しても運用に支障のないクライアント証明書かどうかを十分確認してください。

CSVファイルの書式

証明書ID, 証明書名, フレンドリー名, ステータス, 利用期限, (製品名) の利用, 備考, 削除フラグ

記述例

証明書ID	証明書名	フレンドリー名	ステータス	利用期限	サイボウズ Office 10.8.2の利用	Cybozu Garoon 4.6.0の利用	備考	削除フラグ
12345678-9012-1234-5678-901234567890	Example01		1	2022/11/25		1	利用期限延長	
abcdefgh-ijkl-mnop-qrst-uvwxyzabcdef	Example02	a1b2c3d4-e5f6-g7h8-i9j0-k1l2m3n4o5p6	1	2021/11/25			1 新規発行分	
	Example03							1

CSVファイルに書き出される項目

項目名	説明
証明書ID	
証明書名	
フレンドリー名	
ステータス	
利用期限	月または日が1桁の場合、書き出したCSVファイルをMicrosoft Excelで開くと、先頭の「0」が削除された状態で表示されます。 CSVファイルで書き出したデータを、読み込むデータとして編集して使用する場合は、利用期限の日付を読み込み可能な形式に編集してください。
(製品名) の利用	
備考	
CA	CA (認証局) の発行元情報です。

証明書情報をCSVファイルから読み込む

証明書情報をCSVファイルから読み込む手順を説明します。

複数の証明書を一括で発行する際にご活用ください。

注意

- 証明書名は必須項目です。

1. データを読み込むためのCSVファイルを作成します。

CSVファイルで管理する項目については、[CSVファイルの読み込みに使用する項目\(48ページ\)](#)を参照してください。

2. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
3. 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行クライアント証明書で、[CSVファイルから読み込む]をクリックします。
4. 「クライアント証明書情報の読み込み」画面で、手順1で作成したCSVファイルを選択します。
5. 読み込むデータに必要な項目を設定し、[次へ]をクリックします。
設定する項目は、次のとおりです。

- 文字コード：

CSVファイルのデータを選択した文字コードでエンコードします。選択できる文字コードは、次のとおりです。

- 日本語 (Shift JIS)
- Unicode (UTF-8)

- 先頭行をスキップする：

CSVファイルの先頭行に、項目名やコメントなど、データ以外の情報が記述されている場合は、「はい」を選択します。

6. 必要な項目が設定されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE ログアウト

システム管理 > クライアント証明書の管理 > クライアント証明書情報の読み込み

クライアント証明書情報の読み込み

「*」は必須項目です。

ファイル* certificates_20210119.csv (157 bytes)

文字コード

先頭行をスキップする はい

7. プレビューで、読み込むデータを確認し、[読み込む]をクリックします。

証明書情報をCSVファイルに書き出す

証明書情報をCSVファイルに書き出す手順を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
2. 「クライアント証明書の管理」画面のユーザー発行クライアント証明書の[CSVファイルへ書き出す]をクリックします。
3. 「クライアント証明書情報の書き出し」画面で、書き出すデータに必要な項目を設定します。

設定項目は、次のとおりです。

- 文字コード：

エンコードに使用する文字コードを選択します。選択できる文字コードは、次のとおりです。

- 日本語 (Shift JIS)
- Unicode (UTF-8)

Unicode (UTF-8) で書き出されたデータを、Microsoft Excelで開くと文字化け

します。Microsoft Excelで開く場合は、日本語（Shift-JIS）を選択してください。

- 先頭行に項目名を書き出す：
CSVファイルの先頭行に項目名を書き出す場合は、「はい」を選択します。

4. 設定内容を確認し、[書き出す]をクリックします。



The screenshot shows the 'クライアント証明書情報の書き出し' (Client Certificate Information Export) page. At the top, there is a header with the Cybozu.REMOTE SERVICE logo and a 'ログアウト' (Logout) link. Below the header, a breadcrumb trail reads 'システム管理 > クライアント証明書の管理 > クライアント証明書情報の書き出し'. The main content area has the title 'クライアント証明書情報の書き出し'. There are two input fields: '文字コード' (Character Code) with a dropdown menu showing '日本語 (Shift JIS)', and '先頭行に項目名を書き出す' (Write item names in the first row) with a checked checkbox and the value 'はい'. At the bottom, there are two buttons: '書き出す' (Export) and 'キャンセルする' (Cancel).

5. Webブラウザのファイル保存機能を使って、ファイルを保存します。

2.4. URLを変換する製品を設定する

URL変換機能は、現在アクセスしている製品から、別製品にアクセスする際に、アクセスURLをリモートサービス用のURLに自動的に変換する機能です。

リモートサービスマネージャーに登録している製品に対して利用できます。

初期設定では、無効に設定されています。

利用イメージ

機能を有効にすると、外出中のユーザーでも、社内での作業と同じように、利用する製品に1クリックでアクセスできるようになります。

機能が無効な場合、製品内に掲載しているURLは、リモートサービス用のURLではないため、1クリックでアクセスできません。必要に応じて、ホスト名部分をリモートサービス用のホスト名に置き換える必要があります。

Garoonの画面から、別製品にアクセスしたい場合がありますか？

リモート経由でアクセスしているけど、記載されているURLは、社内のユーザー向けのURLのみ。リモートサービス用のURLが分からずアクセスできない。

例：

2: 加藤 大輔 2021年02月01日 (月) 16:09

山田さん。おつかれさまです。
先ほどの製品ロゴは、こちらのデータベースから取得できます。

`http://*****/scripts/cbdb/db.exe?page=DBRecord&did=1506&rid=184`

確認していただけますか？

👍 いいね! 返信する クリック

自宅からGaroonにアクセス中
リモートアクセスURL:
`https://remote2.cybozu.co.jp/cgi-bin/cbgrn/grn.exe/index`

URL変換が無効の場合

Garoonから別の製品にアクセスする際は、アクセス先のURLをコピーし、メモ帳などでリモートサービス用のURLに手動で置換する必要があります。

`https://*****/scripts/cbdb/db.exe?page=DBRecord&did=1506&rid=184`

↓

`https://remote2.cybozu.co.jp/scripts/cbdb/db.exe?page=DBRecord&did=1506&rid=184`

URL変換が有効の場合

アクセス先のURLが、リモートサービス用のURLに自動的に変換されるため、参照したい情報に1クリックでアクセスできます。

サイボウズ商事: 商品名・ロゴデータ | メモを隠す | ライブラリ管理

ロゴを利用する際は、必ずガイドラインを守るようにしてください。

レコードを登録する
その他の操作

🔍

🔴 総レコード数:3 絞込 (すべて) | レコード一覧ビュー (すべて) |

先頭へ | << 前の30件へ | 次の30件へ >> | 末尾へ

	データ	製品	ステータス
	mw6.png	メールワイズ	変更予定
	o9.png	サイボウズ Office	使用OK
	dz8.png	デヂエ	使用OK

URL変換の制限事項

機能を設定する前に、次の制限事項を確認してください。

- URL変換機能を有効にすると、処理に時間が掛かります。別製品へのリンクが多い登録製品に対してのみ、機能を有効にすることを推奨します。

例：

- Garoon上で、サードパーティー製品などへの参照リンクが掲載されていることが多い場合は、「URLを変換する製品」に「Garoon」を設定します。

- URL変換の対象は、すでに製品の本文やコメントなどに掲載されているURLのみです。

- ホスト名が100文字以上の場合、URLが変換されないことがあります。

- URL変換機能では、ホスト名の大文字と小文字を区別します。

例：

- 登録製品のホスト名が「cybozu.testserver.test」の場合

- ホスト名が「cybozu.testserver.test」のURL：URLが変換されます。
- ホスト名が「cybozu.TestServer.test」のURL：URLは変換されません。

- ホスト名に「IPアドレス」と「FQDN」の両方を設定していても、URL変換は、リモートサービスマネージャーに登録されている製品のホスト名にのみ適用されます。

例：

- 登録製品のホスト名が「cybozu.testserver.test」の場合

- ホスト名が「cybozu.testserver.test」のURL：URLが変換されます。
- ホスト名が「123.124.125.126」のURL：URLは変換されません。

- URL変換は、リモートサービスマネージャーに登録されている製品のホスト名を元に判断しています。

そのため、リモートサービスに登録されている製品のホスト名が別の製品でも利用されると、その製品へのアクセスURLも、URL変換の対象になります。

- 変換されるURLの情報は、次のとおりです。

- htmlのsrc、href、action、data属性の値
- cssのurl属性の値

URLを変換する製品を設定する

リモートサービスマネージャーでの設定方法を説明します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、[URLを変換する製品を設定する]をクリックします。
3. 「URLを変換する製品の設定」画面で、「登録製品」からURLを変換する製品を選択し、[追加]をクリックします。

「登録製品」に表示される製品は、リモートサービスマネージャーに登録済みの製品です。

「URLを変換する製品」に選択した製品の画面内に、「登録製品」のURLが記載されている場合に、URL変換機能を利用できます。

The screenshot shows the 'URL変換する製品の設定' (Setting for URL Conversion Products) page. The page header includes the Cybozu logo and 'Cybozu.REMOTE SERVICE' with a 'ログアウト' (Logout) link. The breadcrumb trail is 'システム管理 > 製品/ユーザーの設定 > URLを変換する製品の設定'. The main heading is 'URLを変換する製品の設定'. Below the heading, there is a description: 'URLを変換する製品を設定します。この設定によって、リモートサービス用のアクセスURLを変更せずに、製品にアクセスできるようになります。' followed by a link '→ 「URLを変換する製品を設定する」'. The page features two columns of product lists. The left column is titled 'URLを変換する製品' and contains 'サイボウズ Office 10.8.0'. The right column is titled '登録製品' and contains 'サイボウズ Office 10.8.0', 'Cybozu Garoon 4.6.0', and 'サイボウズ メールワイズ 5.'. Between the columns are buttons for '← 追加' (Add) and '削除 →' (Delete). At the bottom of the main content area are buttons for '設定する' (Set) and 'キャンセルする' (Cancel). The footer contains navigation links: '製品/ユーザーの設定', 'システム設定', '動作環境', and 'サポート'.

4. 設定内容を確認し、[設定する]をクリックします。

2.5. リモートポータルを設定する

リモートポータルを利用するために必要な設定について説明します。

リモートポータルとは

リモートポータルとは、Webブラウザからリモートサービスを経由して製品にアクセスするユーザーが閲覧できるポータル画面です。

ユーザーは、リモートポータル (<https://remote2.cybozu.co.jp/>) にアクセスし、各製品に接続したり、システム管理者からのお知らせを確認したりできます。「リモートポータル」画面から複数の利用製品にアクセスできます。

The screenshot shows the Cybozu Remote Service portal. The header is 'Cybozu.REMOTE SERVICE'. The main content is divided into two columns. The left column has two sections: '利用製品一覧' (List of products) and 'システム管理者からのお知らせ' (System administrator notices). The right column is titled 'サイボウズからのお知らせ' (Notices from Cybozu) and contains a list of recent updates with dates and titles.

利用製品一覧	サイボウズからのお知らせ
各製品のログイン画面を表示します。 サイボウズ Office 10.8.0	2021年01月20日 更新 「サイボウズ リモートサービス」メンテナンスのお知らせ
システム管理者からのお知らせ	2020年12月14日 更新 サポート窓口体制変更のお知らせ (2020/12/14 更新)
6/4 AM0:00～AM3:00までシステムのメンテナンスを行います。この時間帯は、リモートサービスが利用できなくなりますので、ご注意ください。	2020年11月30日 更新 年末年始の営業について
	2020年11月25日 更新 「サイボウズ リモートサービス」通

注意

- 「リモートポータル」画面にアクセスするには、クライアント証明書の登録が必要です。クライアント証明書とクライアント証明書のパスワードを、リモートポータルを利用する

ユーザーに連絡してください。

詳細は、[アクセス情報をユーザーに連絡する\(61ページ\)](#)方法を参照してください。

- 「リモートポータル」画面に製品が表示されていても、利用ユーザーとして登録されていない製品や、クライアント証明書でアクセスを許可されていない製品にはアクセスできません。
-

リモートポータルを利用する

リモートポータルを利用するために必要な設定をします。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[リモートポータルの設定]をクリックします。
2. 「リモートポータルの設定」画面で、[リモートポータルの利用]をクリックします。
3. 「リモートポータルの利用」画面で、「利用する」のチェックボックスを選択します。
4. 設定内容を確認し、[設定する]をクリックします。

表示内容を設定する

リモートポータルに表示する内容を設定します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[リモートポータルの設定]をクリックします。
2. 「リモートポータルの設定」画面で、[表示の設定]をクリックします。
3. 「表示の設定」画面で、リモートポータルに表示する各項目を設定します。

設定する項目は、次のとおりです。

- ロゴ：
 - ロゴを指定する方法は、次のとおりです。
 - URLによる指定：
 - ロゴをURLで指定する場合は、外部からアクセスできるURLを指定してください。
 - 「http://」から始まるURLを指定すると、お使いのWebブラウザによっては、ロゴが表示されない場合があります。
 - ファイルのアップロードによる指定：
 - ファイルの拡張子が、「.gif」、「.png」、または「.jpeg」のファイルだけロゴの画像として指定できます。
- 表示する製品一覧
- システム管理者からのお知らせ

The screenshot shows the '表示の設定' (Display Settings) page. At the top, there is a navigation bar with 'Cybozu.REMOTE SERVICE' and 'ログアウト'. Below the navigation bar, the breadcrumb trail is 'システム管理 > リモートポータルの設定 > 表示の設定'. The main content area is titled '表示の設定' and includes the following sections:

- リモートポータルに表示される各項目の設定を変更してください。**
- リモートポータル (リモートポータルを見る)**
- ロゴ**: A placeholder for a logo with a '変更する' (Change) button.
- 表示する製品一覧**: A list of products, currently showing 'サイボウズ Office 10.8.0'. There are buttons for '表示する製品を選択する' (Select products to display) and '表示名を変更する' (Change display name).
- サイボウズからのお知らせ**: A notice box containing the text 'サイボウズからのリモートサービスに関するお知らせが表示されます。' (A notice from Cybozu regarding remote services will be displayed).
- システム管理者からのお知らせ**: A notice box containing the text '6/4 AM 0:00~AM 3:00までシステムのメンテナンスを行います。この時間帯は、リモートサービスが利用できなくなりますので、ご注意ください。' (We will perform system maintenance from 6/4 AM 0:00 to AM 3:00. During this time, remote services will be unavailable, so please be careful.) and a '変更する' (Change) button.

リモートポータルURLをユーザーに連絡する

リモートポータルを設定したら、利用ユーザーに、リモートポータルへのアクセスURLを連絡します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[クライアント証明書の管理]をクリックします。
2. 「クライアント証明書の管理」画面で、利用する証明書名をクリックします。
3. 「証明書の詳細」画面で、クライアント証明書のパスワードを確認します。
4. 「クライアント証明書」項目の[ダウンロードする]をクリックします。
5. Webブラウザのファイル保存機能を使って、ファイルを保存します。
6. ユーザーに連絡します。

E-mailなどを使用し、次の情報をユーザーに連絡します。

- クライアント証明書
- クライアント証明書のパスワード
- 「リモートポータル」画面のURL：
<https://remote2.cybozu.co.jp>

2.6. アクセス情報をユーザーに連絡する

Webブラウザ/Garoon モバイルから利用製品にアクセスするために、次の情報をユーザーに連絡します。

- リモートアクセスURL
- ダウンロードしたクライアント証明書
- クライアント証明書のパスワード

利用製品を複数登録している場合でも、利用する製品を追加するたびにクライアント証明書をダウンロードしたり、ユーザーにクライアント証明書を配布したりする必要はありません。利用ユーザーを追加したあとで、「製品情報の詳細」画面を表示した場合は、手順4から操作します。

注意

- リモートサービスのセキュアアクセスオプションが無効な場合、ユーザーに配布するクライアント証明書は、リモートサービスマネージャーの「ライセンスの管理」画面で設定したクライアント証明書と同じです。
- クライアント証明書を配布する前に、次の設定が完了していることを確認します。
 - 利用製品の登録
 - 利用ユーザーの登録
 - 利用する証明書の設定：
リモートサービスのセキュアアクセスオプションが有効な場合に設定します。

1. リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面で、リモートサービスの運用管理の[製品/ユーザーの設定]をクリックします。
2. 「製品/ユーザーの設定」画面で、目的の製品名をクリックします。
3. 「製品情報の詳細」画面で、「利用する証明書」項目の[証明書の利用方法]をクリックします。

お使いのライセンスによっては、複数の証明書が表示されます。

4. 「証明書の詳細」画面で、アクセス情報を確認します。

次の情報を確認します。

- クライアント証明書のパスワード
- 利用製品のリモートアクセスURL：
「アクセス情報」タブをクリックして確認します。

5. 「クライアント証明書」項目で、[ダウンロードする]をクリックします。

6. Webブラウザのファイル保存機能を使って、ファイルを保存します。

7. ユーザーに連絡します。

E-mailなどを使用し、必要な情報をユーザーに連絡します。

「証明書の詳細」画面の「リモートサービスの利用方法」タブに記載されている内容を、ユーザーに連絡すると便利です。

補足

• Webブラウザからアクセスするユーザーの場合：

リモートポータルを利用すると、製品ごとにアクセスURLを連絡する必要はありません。リモートポータルのURLだけをユーザーに連絡すれば、リモートサービス経由で各製品にアクセスできます。

詳細は、[リモートポータルを設定する\(57ページ\)](#)方法を参照してください。

• サードパーティー製品にアクセスする場合：

[サードパーティー製品へのアクセスの制限事項\(28ページ\)](#)を連絡します。

3章 保守

データのバックアップやリストアの方法など、リモートサービスマネージャーの保守に関する説明をします。

3.1. リモートサービスマネージャーを開始、停止する

リモートサービスマネージャーをインストールしたサーバーで、リモートサービスマネージャーを開始したり、停止したりする手順を説明します。

注意

- 継続ライセンスを購入し、ライセンスを更新した場合は、ライセンス情報を更新するためにリモートサービスマネージャーを再起動します。
- リモートサービスマネージャーをバージョンアップする場合は、リモートサービスマネージャーを停止します。
- Windows環境ではAdministrator権限、Linux環境ではroot権限のあるユーザーで、リモートサービスマネージャーの開始や停止をします。

補足

- 次の現象が発生した場合、リモートサービスマネージャーを再起動します。
 - クライアント証明書を登録してもライセンスの内容が表示されない
 - クライアント証明書の登録時に、ネットワークやプロキシの設定が原因でリモートサービスが開始できない

リモートサービスマネージャーを開始する

Windows環境の場合

お使いのOSによっては、メニュー名が異なります。

1. リモートサービスをインストールしているサーバーにアクセスします。
2. サーバーのAdministrator権限を持つユーザーでログインします。
3. コントロールパネルを表示し、[管理ツール]をクリックします。
4. 「サービス」をダブルクリックします。
5. サービスの一覧に「CybozuRemoteService2 (インストール識別子)」があることを確認します。
インストール識別子が「cbrc」の場合、「CybozuRemoteService2cbrc」と表示されます。
6. 「CybozuRemoteService2 (インストール識別子)」を右クリックし、[開始]をクリックします。

Linux環境の場合

1. 次のコマンドを実行します。

```
# systemctl start cbrs_ (インストール識別子)
```

リモートサービスマネージャーを再起動する

Windows環境の場合

お使いのOSによっては、メニュー名が異なります。

1. リモートサービスをインストールしているサーバーにアクセスします。
2. サーバーのAdministrator権限を持つユーザーでログインします。
3. コントロールパネルを表示し、[管理ツール]をクリックします。
4. 「サービス」をダブルクリックします。
5. サービスの一覧に「CybozuRemoteService2 (インストール識別子)」があることを確認します。
インストール識別子が「cbrc」の場合、「CybozuRemoteService2cbrc」と表示されません。
6. 「CybozuRemoteService2 (インストール識別子)」を右クリックし、[再起動]をクリックします。

Linux環境の場合

1. 次のコマンドを入力します。

```
# systemctl stop cbrs_ (インストール識別子)
# systemctl start cbrs_ (インストール識別子)
```

リモートサービスマネージャーを停止する

Windows環境の場合

お使いのOSによっては、メニュー名が異なります。

1. リモートサービスをインストールしているサーバーにアクセスします。
2. サーバーのAdministrator権限を持つユーザーでログインします。
3. コントロールパネルを表示し、[管理ツール]をクリックします。
4. 「サービス」をダブルクリックします。
5. サービスの一覧に「CybozuRemoteService2（インストール識別子）」があることを確認します。
インストール識別子が「cbrc」の場合、「CybozuRemoteService2cbrc」と表示されません。
6. 「CybozuRemoteService2（インストール識別子）」を右クリックし、[停止]をクリックします。

Linux環境の場合

1. 次のコマンドを入力します。

```
# systemctl stop cbrs_（インストール識別子）
```

3.2. データをバックアップする

誤って必要なデータを削除してしまった場合や、サーバーの故障、バージョンアップ時などに備え、リモートサービスマネージャーのデータをバックアップすることを推奨します。

データの破損や、誤操作によるデータの削除が発生しても、バックアップデータを使って、事故が起こる前の状態に戻すことができます。

ここでは、手動で行うバックアップの方法を説明します。

注意

- サーバーのハードディスクが故障すると、サーバー自体が使用できなくなります。この場合、リモートサービスマネージャーのデータをバックアップしていても、すぐにリモートサービスを使える状態に復旧できません。
スムーズにシステム全体を復旧するためにも、システム全体のバックアップが取れる専用ソフトのインストールや各種ドライバーの設定、予備のサーバーの準備もご検討ください。

バックアップするディレクトリーとファイル

次のディレクトリーと配下のファイルをバックアップします。ファイル構成の詳細については、[ファイル構成](#)のページを参照してください。

- (インストールディレクトリー) \conf配下の次の3ファイル
 - クライアント証明書 (リモートID.zip) :
リモートID.zipがない場合は、RelayClient.propertiesとuser.pfxのみバックアップします。
 - RelayClient.properties
 - user.pfx
- (インストールディレクトリー) \data配下のすべてのデータ

Windows環境の場合

インストールディレクトリーが「C:\ProgramFiles\Cybozu\cbrc」の場合の例です。

- C:\Program Files\Cybozu\cbrc\conf\R*****.zip
「R*****」はリモートIDです。
- C:\Program Files\Cybozu\cbrc\conf\RelayClient.properties
- C:\Program Files\Cybozu\cbrc\conf\user.pfx

- C:\Program Files\Cybozu\cbrc\data

Linux環境の場合

インストールディレクトリーが「/usr/local/cybozu/cbrc」の場合の例です。

- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/R*****.zip
「R*****」はリモートIDです。
- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/RelayClient.properties
- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/user.pfx
- /usr/local/cybozu/cbrc/data

補足

- 2.0.4以前のバージョンの場合は、次のデータをコピーします。
 - (インストールディレクトリー) \conf配下のすべてのファイルとディレクトリー

バックアップ作業の手順

バックアップするディレクトリーとファイルを、外部の媒体（磁気テープ、CD-R、MO、別のハードディスクなど）に手動でコピーしてバックアップします。

注意

- データのバックアップ作業は、ユーザーがリモートサービスを利用しない時間帯に行ってください。

Steps:

- Step 1 [リモートサービスマネージャーを停止します。](#)
- Step 2 [必要なデータをコピーし、外部媒体などに保存します。](#)
- Step 3 [リモートサービスマネージャーを再起動します。](#)

**Step
1**

リモートサービスマネージャーを停止します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを停止する\(65ページ\)](#)方法を参照してください。

**Step
2**

必要なデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

必要なデータについての詳細は、[バックアップするディレクトリーとファイル\(67ページ\)](#)を参照してください。

**Step
3**

リモートサービスマネージャーを再起動します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを再起動する\(64ページ\)](#)方法を参照してください。

3.3. データをリストアする

バックアップデータ（クライアント証明書「R*****.zip」、 「user.pfx」、 「data」）を利用し、データの復旧を行います。

バックアップデータとは、バックアップしたディレクトリーとファイルを指します。詳細は、[バックアップするディレクトリーとファイル\(67ページ\)](#)を参照してください。

注意

- データをリストアしても、バックアップ以降に変更したデータは復旧されません。このため、バックアップ以降に追加した製品が解除されたり、削除したデータが一覧に表示されたりなど、データに不整合が生じる可能性があります。
- バックアップデータをリストアする際は、上書きコピーではなく、既存のデータ（クライアント証明書「R*****.zip」、 「user.pfx」、 「data」）を削除またはリネームし、バックアップデータと置き換えてください。上書きコピーした場合、データファイルの不整合が発生する場合があります。
- バックアップ元とリストア先のインストール識別子を合わせる必要があります。
例：
 - バックアップ元のインストール識別子：cbrc
 - リストア先のインストール識別子：cbrc
- バックアップデータをリストアする際には、バックアップ元とリストア先のリモートサービスのバージョンが一致しているか、バックアップ元よりもリストア先のリモートサービスマネージャーのバージョンが新しい必要があります。
バックアップ元とリストア先のバージョンが異なる場合は、データをバージョンアップする必要があるため、リストア後、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールしてください。

Steps:

- Step 1 [リストア先のリモートサービスマネージャーを停止します。](#)
- Step 2 [リストア先の次のディレクトリをリネーム、または削除します。](#)
- Step 3 [バックアップファイルをリストア先に配置します。](#)
- Step 4 [RelayClient.propertiesに記載されている項目の値を確認します。](#)
- Step 5 [Linux環境の場合は、ディレクトリーとファイルのアクセス権を設定します。](#)
- Step 6 [必要に応じて、リストア先に、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールします。](#)

Step 7 [リストア先のリモートサービスマネージャーを再起動します。](#)

Step 8 [Webブラウザを起動して、リモートサービスマネージャーにアクセスし、動作確認をします。](#)

Step 1

リストア先のリモートサービスマネージャーを停止します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを停止する\(65ページ\)](#)方法を参照してください。利用中のサーバーのリモートサービスから、別のサーバーにインストールしたリモートサービスマネージャーにデータをリストアする場合は、バックアップ元のリモートサービスマネージャーも停止します。

Step 2

リストア先の次のディレクトリをリネーム、または削除します。

「RelayClient.properties」は、ここでは削除やリネームをしないでおきます。クライアント証明書「R*****.zip」と「user.pfx」が存在しない場合は、「data」ディレクトリのみリネーム、または削除します。

• Windows環境でのリネームの例：

- クライアント証明書（リモートID.zip）
 - リネーム前：（インストールディレクトリ）\conf\R*****.zip
 - リネーム後：（インストールディレクトリ）\conf\R*****_backup.zip
- user.pfx
 - リネーム前：（インストールディレクトリ）\conf\user.pfx
 - リネーム後：（インストールディレクトリ）\conf\user_backup.pfx
- （インストールディレクトリ）\data
 - リネーム前：（インストールディレクトリ）\data
 - リネーム後：（インストールディレクトリ）\data_backup

**Step
3****バックアップファイルをリストア先に配置します。**

インストールディレクトリ配下に配置します。

- Windows環境で配置する場合の例：
 - バックアップファイル「\conf\R*****.zip」：
（インストールディレクトリ）\conf\R*****.zipとして配置
 - バックアップファイル「\conf\user.pfx」：
（インストールディレクトリ）\conf\user.pfxとして配置
 - バックアップファイル「\data」配下すべてのデータ：
（インストールディレクトリ）\dataとして配置

**Step
4****RelayClient.propertiesに記載されている項目の値を確認します。**

次のファイルを開きます。

- リストア先のインストールディレクトリのRelayClient.properties
 - Windows環境の場合：
（インストールディレクトリ）\conf\RelayClient.properties
- バックアップ元のRelayClient.properties

RelayClient.propertiesに記載されている項目の値を確認します。確認する項目は、次のとおりです。

- SecuritySyncIntervalMinutes
- ServerPort
- ServerAddress
- DispatcherWorkerThreadCount
- TimeOutSec
- SsoCookie

項目の値が異なっている場合は、バックアップ元のRelayClient.propertiesの値を、リストア先のインストールディレクトリのRelayClient.propertiesの値にコピーします。

- 確認する値の例：

```
#Tue Jan 28 13:52:45 JST 2014
SecuritySyncIntervalMinutes=30
Version=3.1.x
ServerPort=443
ClientID=139088*****
ServerAddress=remote2rc.cybozu.co.jp
DispatcherWorkerThreadCount=15
TimeOutSec=120
SsoCookie=CB_CLOGIN,CB_PLOGIN,CB_OPENAUTH
RegistServiceName=cbrc
```

Step 5

Linux環境の場合は、ディレクトリーとファイルのアクセス権を設定します。

リストア先で、次のアクセス権が適切に設定されていることを確認します。

- dataディレクトリ：755
- リモートID.zip：644
- user.pfx：644
- data配下のすべてのデータ：664、または644

Step 6

必要に応じて、リストア先に、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールします。

次のいずれかの条件に該当する場合、リストア先に最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールします。

- バックアップ元とリストア先のリモートサービスマネージャーのバージョンが異なる場合
- サーバー移行を伴っている場合

上書きインストールする方法は、次のページを参照してください。

[Windows環境でバージョンアップする](#)

[Linux環境でバージョンアップする](#)

サーバー移行を伴っていない、かつ、バックアップ元とリストア先のリモートサービスマネージャーのバージョンが同一である場合は、リストア先に、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールする必要はありません。Step 7に進んでください。

Step 7

リストア先のリモートサービスマネージャーを再起動します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを再起動する\(64ページ\)](#)方法を参照してください。

バックアップ元のリモートサービスマネージャーも、必要に応じて再起動します。

Step 8

Webブラウザを起動して、リモートサービスマネージャーにアクセスし、動作確認をします。

次の項目を確認します。

- リストアしたデータを、正常に閲覧または表示できる。
- 正常にデータを登録または変更できる。

3.4. 製品の動作環境を確認する

リモートサービスマネージャーの動作環境を確認します。

1. リモートサービスマネージャーで、[動作環境]をクリックします。



2. 画面に表示された内容を確認します。

- 確認できる項目は、次のとおりです。
 - リモートサービスマネージャーのバージョン
 - リモートサービスマネージャーのインストールディレクトリー
 - インストールしているサーバーのOS
 - Webプロキシの利用状況
 - プロキシサーバー名
 - プロキシサーバーのポート番号
 - リモートID
 - CA（認証局）の発行元情報

- ライセンスの終了日
- クライアント証明書の有効期限
- 利用している製品のアクセスURL
- 利用している製品の利用ユーザー数

3.5. ログから得られる情報

リモートサービスマネージャーのログファイルについて説明します。

ログファイルは、リモートサービスマネージャーをインストールしたフォルダーのlogsフォルダーに保存されます。保存場所は、[ファイル構成](#)を参照してください。

ファイルサイズが10MBを超えると、新しいログファイルが作成されます。ログファイルは、最大8ファイルまで作成され、以降は上書きされます。すべてのログファイルを保管する場合は、定期的にログファイルを別フォルダーにコピーする必要があります。

ログファイルで確認できる情報は、次のとおりです。

• **RelayClient.log** :

リモートサービスマネージャーのトレースログです。

• **access.log** :

各製品へのアクセスログです。

• **rsm_access.log** :

リモートサービスマネージャーへのアクセスログです。

• **network.log** :

ネットワークの接続状況に関するログです。

• **status.log** :

リモートサービスマネージャーから各製品や中継サーバーへのアクセスの滞留を記録するログです。

- **Cybozu(R)_Remote_Service_バージョン番号_(インストール識別子)_InstallLog.log** :
リモートサービスマネージャーのインストールログです。インストールログは、インストールフォルダーに作成されます。
- **Cybozu(R)_Remote_Service_バージョン番号_InstallLog.log** :
リモートサービスマネージャーのインストールをキャンセルまたは失敗したときのログです。
- **device.log** :
MDMオプションを利用している場合の端末制御（初期化処理）のログ、およびKUNAIのエラーログの一部です。
- **Error.log** :
リモートサービスマネージャーのエラーログです。

補足

- ログファイルの文字コードは、UTF-8です。

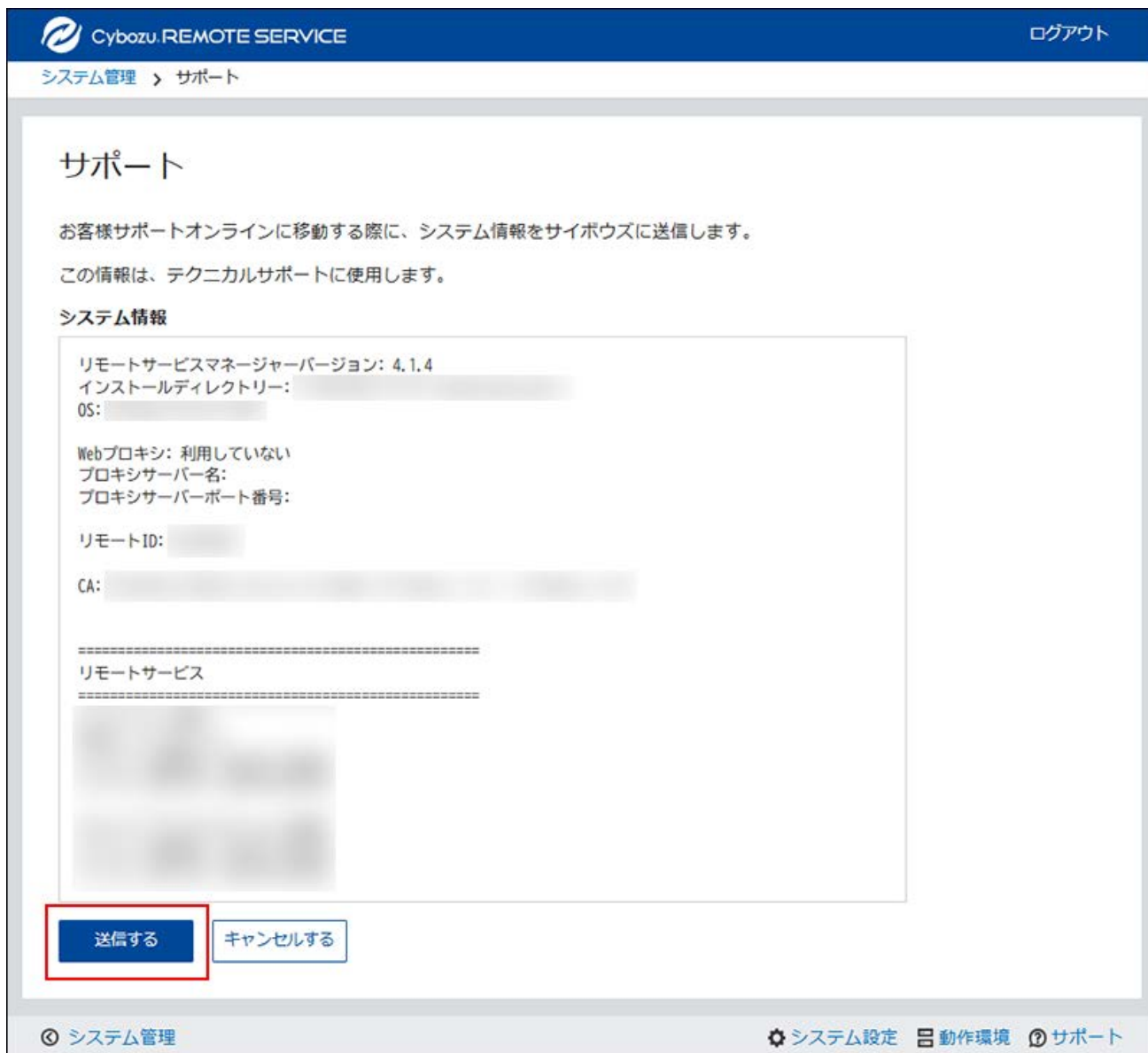
3.6. サポートオンラインに問い合わせる

リモートサービスマネージャーの操作方法がわからないときやトラブルが起きた場合には、オンラインで問い合わせができます。

1. リモートサービスマネージャーで、[サポート]をクリックします。



2. サポートセンターに送信する情報を確認し、[送信する]をクリックします。



3. 「お客様サポートオンライン」画面の指示に従って、問い合わせ内容を入力し送信します。

© Cybozu